

令和元年度 日本大学スポーツ科学部 学部研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
 資格： 教授
 氏名： 青山 亜紀

<p>研究課題名</p>	<p>現代の競技スポーツに応じたピリオダイゼーション理論についての比較研究</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>トレーニングピリオダイゼーション理論は、1960年代に旧ソ連のマトヴェイエフによって体系化されたことに始まり、「アスリートの準備」という観点から重要な位置づけとして捉えられ、旧共産圏を中止に広がりを見せた。しかしながら言葉の壁に阻まれて、我が国におけるトレーニングピリオダイゼーション研究は、村木征人の主著「スポーツトレーニング理論」（1994）を最後に停滞し、新たな知見が得られていない。マトヴェイエフ理論体系化から半世紀以上が経過し、現代の競技スポーツでは年間に開催される重要試合が増加した。このような状況から、現在「何を目指し、どのように戦っていくのか」という観点において、ロシア語圏を中心に新たなトレーニングピリオダイゼーション理論に基づくトレーニング計画モデルが複数存在するようになり、それらは東欧諸国のコーチやアスリートに適用されている。しかしながら我が国のトレーニング現場では、それらの理論における理解が不十分な状況にある。したがって本研究では、東欧諸国のピリオダイゼーション理論の研究における現状を把握すること、それに基づき個々の状況に応じた適切なトレーニング計画立案における基礎的知見を得ることにある。</p>
<p>研究実績の概要</p>	<p>本研究の目的を達成するため、昨年に引き続き、トレーニングピリオダイゼーション研究の第一人者であるウクライナ国立体育大学のV.N.プラトノフ氏に直接インタビューを行った。今回のインタビューにおいてもトレーニングピリオダイゼーション理論に関わる貴重な見解を得ることができた。その中でも、「選手の多年にわたる準備プロセスの重要性」を再確認することができたことが大変大きな成果であったと考えられる。プラトノフ氏は、競技力を形成し発展させていくためには、全体性を俯瞰して検討しなくてはならないことを再三にわたり強調していた。この問題は、毎年のように最重要試合に出場する現代のトップ選手の競技力の形成の問題に大きく関わる重要な問題であると考えられる。この問題についてプラトノフ氏がまとめた論文を翻訳し、「コーチング学研究」に掲載した。また、それらの知見を陸上競技の現状に応用し、「陸上競技のコーチング学」（大修館書店）にまとめた。</p>